

平成 2 2 年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）

マダガスカル共和国における コミュニティ・ライブラリー 創設事業



財団法人神戸国際協力交流センター
N G O 団体 神戸ナマナクラブ

平成 22 年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）
マダガスカル共和国における
コミュニティ・ライブラリー創設事業

1. 事業実施に係る経緯

マダガスカル共和国との交流や同国への支援を行っている NGO 団体神戸ナマナクラブ（以下、「当クラブ」という。）が同国からの留学生と交流するなかで、一部の大都市は別として多くの町村では図書館の施設がなく、人々には本を読むという習慣が根付いていないことがわかった。

世界の最貧国のひとつである同国では、環境衛生、防災などで大きな問題を抱えており、それらの解決には道は遠くても子どもたちの教育が重要であり、そのためには子どもたちが本を読み、知識を得る喜びを知ることが問題の解決への一助になると考え、地域の図書館を整備することとした。そのため、平成 21 年度には当モデル事業の助成を受け、現地で事業を推進する研修生 2 名を日本に招へいして基礎的な研修を修めてもらうとともに、同国アンチラベ市の小学校に翻訳絵本を贈る事業を展開したが、同校の空き教室があまりにも老朽化していたため、22 年度はこれを整備して地域の「コミュニティ・ライブラリー」に発展させるべくこの事業を実施した。

2. 事業の内容と成果

（財）神戸国際協力交流センター（以下、「当センター」という。）とマダガスカル共和国の NGO 団体 AID (Aide aux Initiatives de Development) および当クラブの三者が連携して、現地に 2 名を派遣。2 小学校を訪問、視察して現地の協力者とアンチラベの小学校の図書室の整備工事について打ち合わせの上、現地業者に発注。2 ヶ月間で整備工事を完了した。工事中の管理は直接できなかったため現地協力者に進捗状況を随時報告させた。一方、前年に続いて手作りの翻訳絵本と紙芝居あわせて 228 点を新たに両校に贈り、読み聞かせなどに活用された。また、青年海外協力隊員（教員養成）中村純二氏より要請があり、絵本を 22 冊贈った。

(1) 現地視察

①調査日程：平成 22 年 8 月 4 日～8 月 9 日

②訪問先 ・アンタナナリブ市アンブディニスティ小学校（8/4）
・アンチラベ市ベマスアンドゥル小学校（8/5～8/6）
・JICA マダガスカル事務所（8/4）

③調査員：神戸ナマナクラブ代表・中山里榮、藤野博史（教員）の 2 名

④現地協力：ティナ氏、ラドウ氏（前年度の事業で来日した研修生 2 名）

JICA 事務所長・笹館孝一氏、協力隊員・中村純二氏（教員）ほか

(2) 図書室の整備

①図書室を整備した学校：アンチラベ市ベマスアンドゥル小学校

②工事期間：平成 22 年 8 月 6 日～10 月 15 日

③整備内容：天井、床、壁の補修、棚の新設、机、椅子の新調 など。

(3) 翻訳絵本の作成と寄贈

日本語の図書（絵本 49 作品・紙芝居 2 作品）あわせて 250 冊を購入し、著者の承認を得て現地語に翻訳したシールを貼り付け、両校の子どもたちに寄贈した。シール貼りは、延べ 30 日間にわたって、233 名（延べ人数）のボランティアが従事した。



現地訪問の藤野さん（中央）、中山代表（右端）

3. 事業の実施経過

月 日	活 動 内 容	人
4/1	(事業開始)	
4/2	渡航打ち合わせ	3
4/7	渡航打ち合わせ	4
4/9	翻訳絵本のシール貼り	3
4/16	渡航打ち合わせ	15
4/19	翻訳絵本のシール貼り	5
4/22	渡航打ち合わせ	3
4/28	事業計画の相談	3
5/8	事業計画連絡会	8
5/17	翻訳絵本のシール貼り	4
5/26	翻訳絵本のシール貼り	4
6/2	サンテレビ・神戸新聞訪問	3
6/8	センターへ事業の相談	2
6/11	翻訳絵本のシール貼り	3
6/21	翻訳絵本のシール貼り	6
6/23	翻訳絵本のシール貼り	2
6/25	図書室整備工事打ち合わせ	3
6/29	翻訳絵本のシール貼り	4
7/5	渡航打ち合わせ (同行者に絵本を渡す)	3
7/7	翻訳絵本のシール貼り	5
7/16	翻訳絵本のシール貼り	5
7/22	翻訳絵本のシール貼り 図書室整備工事打ち合わせ	5 3
7/28	図書室整備工事打ち合わせ	3
7/30	翻訳絵本のシール貼り	5
8/3	マダガスカルへ出発(同行8名)	2
8/4	マダガスカル訪問(～8/9)	2
8/10	帰 国	
8/24	帰国報告会及び今後の予定	8
9/1	翻訳絵本のシール貼り	5
9/8	翻訳絵本のシール貼り (サンテレビ取材)	9
9/9	サンテレビ・ニュース番組で放送	
9/14	翻訳絵本のシール貼り	5
9/17	翻訳絵本のシール貼り	6
9/28	翻訳絵本のシール貼り	4
10/18	翻訳絵本のシール貼り	4
10/4	翻訳絵本のシール貼り	5
10/15	翻訳絵本のシール貼り	8
10/15	「コミュニティライブラリー」完成	
10/18	翻訳絵本のシール貼り (神戸新聞東播支局取材)	11
10/20	翻訳絵本のシール貼り・郵送準備	2
10/22	KICCへ中間報告	2
10/23	マダガスカルの小学校に絵本送付	
10/24	マダガスカル民話の件打ち合わせ	2
10/27	翻訳絵本のシール貼り	4
11/5	事業連絡報告会 18:00 翻訳絵本のシール貼り	5 5
11/6	マダガスカルへの連絡方法相談	3
11/11	翻訳絵本のシール貼り	5
11/16	翻訳絵本のシール貼り	5
11/29	翻訳絵本のシール貼り	5
12/7	翻訳絵本のシール貼り	5
12/13	翻訳絵本のシール貼り	4
12/16	神戸新聞・はりま版掲載	
12/18	神戸新聞・こうべ版掲載	
12/20	翻訳絵本のシール貼り	5
12/25	マダガスカルへ絵本送付	
1/4	翻訳絵本の仕上げ	2
1/6	マダガスカルへ絵本送付	
1/13	会計報告作成	2
1/22	事業報告会	
1/25	センターへ会計報告	2

(右端の数字は参加人数)

4. 現地訪問（小学校視察・図書室の整備）の報告

◇8月4日：JICAマダガスカル事務所訪問

(アンタナナリブ)

笹館所長と面談、マダガスカルの現状について聴取後、当クラブの活動、事業内容や絵本を贈るようになった経緯などを説明。笹館所長から、「マダガスカルの子どもたちにとって、マダガスカル語図書へのアクセスが悪いことは事実で、当地ではそうした子どもたちと接する機会の多い協力隊員や教員養成所で教員の養成に関わっている隊員がいる。これらの協力隊員にとって



は、ナマナクラブが作成する翻訳図書は極めて貴重かつ活用可能性の高いもの。」とのお話があった。また、本の輸送について「世界の笑顔プログラム」による方法の紹介を受けた。

◇ 8月4日：アンタナナリブ市アンブディニスティ小学校（EPP Ambodin' Isotry）訪問

13時45分、同校に到着。運動場で男女約150名の生徒たちの歓迎を受けた。服装からアンタナナリブ市内でも最貧地域にある小学校と実感する。校長先生と面談後、教室で校長先生が私たちを紹介、中山がここにきた目的を生徒たちに伝え、ラドゥ氏が読み聞かせを始めた（右の写真）。子どもたちは静かに、小さい本の絵に集中していた。紙芝居「ゆめくらべ」、絵本「すてきな3にんぐみ」と続けたあとは、奈良県の法隆寺国際高校の有志が作った布絵本を見せた。ページをめくるたびに大きな拍手が沸き、心を込めて丁寧に作られた本であることが伝わったようだ。2回目は人数が増え、教室はすし詰め状態。藤野からナマナクラブと一緒にここにきたわけを説明、読み聞かせはティナ氏が担当した。「おおきなかぶ」は繰り返しの部分が面白いのか、笑い声も。次に紙芝居「チョコレートカステラ大事件」、最後に布絵本と折り紙で鶴を作ってみせて終了。その後、運動場で大縄跳びをしたが、日本より回すスピードがうんと速いのびびっくりした。その間、校長先生に校内を案内してもらったが、教室は長机が並ぶだけで電灯もなく殺風景。



職員室もせまく先生は授業だけしてすぐに帰ってしまうので、職員室のない学校もあるそうだ。図書室は物置のようで本は100冊もなかった。児童数は2,300名（1年～5年）、1クラスは60名。教室は24。午前と午後の二部制。児童数の多さ、1クラスの人数の多さに驚いた。14%ぐらいの子だけが上の学校に行くそうで、マダガスカルの平均と比べてもかなり低い数字である。

◇ 8月5日：アンチラベ・ベマスアンドウル小学校

（EPP Bemasoandro）訪問

アンチラベの市街地から細い道を経て学校に到着。道の両側の家はかなり粗末でゴミも多い。校長室とパソコン（今年ノルウェーから贈られた中古）が入った部屋の建物と、教室の建物が3つ運動場を囲んで建てられている。今回の「図書室整備」はこの小学校で実施する。校長先生と工事業者が我々の到着を待っていてくれた。校長先生は女性で、いかにも教育者といった感じ。図書室に改装したいという部屋は、3つの教室棟の中では一番古い棟の左端の部屋であり、かなり老朽化している。天井の木がたわみ、隙間が空いている部分があり、窓は小さく鎧戸式で、閉めると光が入らない。開けていてもかなり暗い。床もデコボコ、机や椅子もかなり傷んでいたが、その教室棟の他の3つの教室はもっとひどく、天井の木がめくれ、屋根の裏が見えている部屋もあった。机や椅子は壊れているものも多く、本当にここで勉強しているのかと思うような状態だった。





【工事の打ち合わせ】

改装工事は、①図書室の入り口を少し狭くして新しい教室棟と同じような頑丈な金属製のドアにして窓は格子のついたガラス窓にする。②天井の木を張り替え、床と壁をきれいにする。③棚を作り机と椅子を新しくする一など。見積書を見ながら確認して翌日の午後までに改装に必要な資材を業者に準備させるよう校長先生にお願いして見積額の半額を渡す。校長先生によると、この小学校の児童数は670人（1年～5年）。先生は15人で教室は8つ。1クラスの人気数は40～50人で、午前と午後の2部制。85%の子どもが上の学校に行く。

2年生からフランス語の勉強を始めるが、5年になっても読めない、話せないという子もかなり多いということだった。やはり本を贈るならマダガスカル語の方がいいようだ。

◇8月6日：アンチラベ・ベマスアンドウル小学校再訪

13時40分 小学校へ到着。校長室の横の日陰で50人ほどの子どもたちが並んで座り、本を読んでもらっていた。前に絵本を贈っているのので、本の読み聞かせには慣れているようだった。子どもたちの歌も聞いたが、手拍子も入ったかわいい歌で誰でも知っている手遊び歌らしい。校長先生から我々を紹介してもらった後、持ってきた本を渡し布の絵本を紹介。やはり色が綺麗でわかりやすく立体的な布の絵本は大人気だった。日本の高校生（法隆寺国際高校）が心を込めて作ったことを紹介。校長先生に日本から持ってきた「11ぴきのねこ」を読み聞かせてもらった。かなり慣れているようすで、以前に贈った本が日常的に活用されていることが感じられた。子どもたちも楽しそうに真剣に聞いていた。続いて、若い女の先生が「すてきな3にんぐみ」を読み聞かせ。こちらもずいぶん慣れている感じ。いろんな先生が子どもたちに日常的に本を読んでやっていることがわかり、このような学校の図書室を整備することの重要性をあらためて認識した。最後に、ラドゥ氏が紙芝居「チョコレートカステラ大事件」を読み聞かせした後、運動場で縄跳びをした。大縄飛びは初めてだと思うが、みんなとても上手だった。その後、折り紙や紙飛行機の作り方などを教えると、何度も紙飛行機を飛ばし楽しそうに遊んでいた。青い空をバックに色とりどりの紙飛行機がきれいだった。おやつタイムはトウモロコシを炊いたおやつだった。早くも図書室の改装工事が始まり、10月の新学期までにはできあがる予定ということ。工事業者にはきちんとした工事をするよう指示し、ティナ氏とラドゥ氏には、途中経過と完成時の報告を依頼した。新しい図書室で子どもたちが自分で本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりしている姿を想像しながら学校を後にした。



◇その他の訪問先

- ・住友商事マダガスカル支社(8/4)：住友商事はフランスの教師用の指導書を各学校に贈る事業を計画。政情不安のため書籍は配ることができず、倉庫に眠ったまま。情勢がよくなればJICAとも協力して事業を展開していくとのこと。

5. 図書室の整備

- (1) 現地業者との交渉：本来はA I Dに依頼するべきだが、6月に直接学校長に業者2、3社を選び見積書を送るよう依頼。校長からは2業者からの見積書が送られてきたが、見積もり額の低い方でも整備はできるということで決定。
- (2) 工事の指示、管理：8月5日現地を訪問した藤野、中山、A I D（ティナ氏、ラドゥ氏）が小学校で校長と業者に会い、工事箇所の指示と資材調達を依頼。翌日、資材が揃っているのを確認、工事開始へ。工事の管理は校長、工事中にはA I Dがナマナクラブに経過報告することとした。（実際には得られなかった。）
- (3) 整備箇所：天井板、ひさしの張り替え、壁のペンキ塗り替え、板戸の入りを鉄のドアに取り替え、板戸の窓をガラス窓・鉄格子に取り替え、床のセメントの塗り替え。長椅子20、長机10、本棚6を新設。
 - ・工 期：8月6日～10月15日 建物の整備。机、いす、本棚は10月末設置。
 - ・整備状況：工事前は天井に大きな穴が開き、のき板が破れ、壁の塗装は剥げ、床のコンクリートもごつごつとしていたが、写真で見る限りとてもきれいに整備された。



工事前の教室



工事中



完成した図書室

◇アンチラベ・ベマスアンドウル小学校の校長と先生からの御礼状（メール）

◎中山様、ナマナクラブの皆様へ（2010-11-10 受信）

子どもたちは風邪をひいていますが、先生たちは元気です。整備がちゃんとできているので、先生たちや子どもたちの両親も喜んでます。アンチラベの市長も立ち寄ってきて、たいへん喜んでいました。わたしたちへの支援を続けてほしいんですって！送っていただいた21冊の絵本を受け取りました。ありがとうございました。子どもたちや先生たちが絵本を読んでいる写真を撮りたいと思いますが、写真を撮る人がなかなか来られないんです。来たらすぐ撮ってメールで送ります。以上です。よろしくお願いします。

Josephine（校長先生）

◎中山様、ナマナクラブの皆様（2010-11-16 受信）

2年生の先生のMIRANTSOA Lala Ranaivoと申します。ナマナクラブのおかげで、整備がちゃんときれいにできてありがとうございました。送っていただいた21冊の絵本を受け取って、もう使っています。絵本が先生たちの授業やこどもの教育のためにすごく役に立ちます。絵本の話と絵で子供たちがかんたんに理解できて、子供には覚えやすいのです。読みの練習のためにもとても必要です。先生たちはナマナクラブの支援が続けてほしいです。このメールで送っているのは整備できた図書室の写真です。ほんとにありがとうございました。

ではよろしくおねがいします。

MIRANTSOA Lala Ranaivo（2年生の先生）

6・翻訳絵本のシール貼り

- (1) 平成22年4月から29日間にわたって、延べ233人が作業。場所は主に神戸市灘区の六甲道勤労市民センターで日本語の絵本にマダガスカル語に訳したシールを一枚一枚貼っていく。絵本は、著者、出版社の許可をとらなければならないが、いずれも協力的だった。作業のようすは、神戸新聞、サンテレビが取材、後日掲載、放送された。

(2) 作業の手順

- ・ 翻訳文を絵本の文章にあわせてレイアウトし、ラベルシールに印刷－写真①
- ・ 原文と照らし合わせながらラベルシールを貼り付け－②
- ・ 貼り終わったら原文とチェック
- ・ タイトル（表紙、中表紙、背表紙）、著者名、出版社名を印刷、貼り付け－③
- ・ 当クラブのラベルを貼り付けて完成－④



①



②



③



④

マダガスカルへ寄贈した本一覧		
ははのはなし	11びきのねこ	かってなくま
ろうそくいっぽん	けんかのきもち	スーホのしろいうま
おおきなかぶ	ぼくのむらにサーカスがきた	せかいいちうつくしいぼくのむら
ぐりとぐら	ぜっこう	ただかえ恐竜トリオ
ぐりとぐらのおきゃくさま	ちいさいたね	しょうぼうじどうしゃじぶた
ジオジオのかんむり	はらぺこあおむし	とらっく、とらっく、とらっく
そらいろのたね	タタはさばくのロバ	はっぱのあな
くまさんなみてるの	とらねこさんおはいんなさい	こがねぐも
ねずみのいもほり	ちびごりらのちびちび	きもち
どうぞのいす	ねむりいす	土の家
たべもののたび	くじらのパース	ほね
11びきのねことへんなねこ	ライオンはそよかぜのなかで	かすのほん
わたしのワンピース	きょうはなんのひ	かみひこうき
森が海をつくる	にじ	＜紙芝居＞
くったのんだわらった	ふしぎなたけのこ	チョコレートかすてらだいじけん
ももたろう	おかえし	ゆめくらべ
まっくらネリノ	おいしいのぼうけん	アンチラベ 98冊
ともだちや	ゲームブックNo.2	アンタナナリヴ 130冊
		JICA 中村さん 22冊

7. 今後の課題と展望

2年にわたる事業で小規模ながらも大きな第一歩を踏み出すことができた。乾いた砂に水がしみこむように子どもたちが本を待ち望んでいることがわかった。また、現地には推進役のNGOやJICAの協力隊員など事業を理解し、協力してくれる人たちがいることも確かめられた。その一方で、次のような当面の課題が残っている。

- (1) アンチラベの図書室を地域に開放する場合、もっと高学年や大人の本が必要になるが、どのように調達し揃えていくか。
- (2) アンタナナリヴやアンチラベなど手掛かりができたところの小学校へ絵本を送り続ける場合、翻訳許諾の更新、絵本の購入、送料などの費用の問題をどうするか。
- (3) マダガスカルでの仲介、責任者を今後誰に頼むか。
- (4) マダガスカル民話を絵本化する話があるが、どう具体化するか。

今後、ベマスアンドゥル小学校にできた小さな図書室がモデルとなってマダガスカル各地に「コミュニティ・ライブラリー」が生まれることを期待するばかりだが、そのためには、現地に核となる理解者や協力者を増やすこと、できる限りの経済的援助をすること、日本から継続して本を送り届けること－などが必要であると考えている。